

## 現地団体 × JKSK プロジェクト

志が高く、ネットワークもある首都圏のエキスパートの女性たち10人とスタートした「JKSK 東日本大震災復興支援プロジェクト～結結プロジェクト～」は、5年間以上、多くの復興地の女性リーダーをサポートしてきました。

震災直後は亘理、石巻、いわき、気仙沼、南三陸などで車座・交流会を実施し、被災地の女性や若者を中心に、膝を付き合わせて何が問題なのかを熱く議論。複雑で困難な問題の解決に向けてみんなの知恵やネットワークを駆使し、資金調達から、友人のように寄り添うメンター活動に至るまで、自立への支援を続けてきました。女性ならではのきめ細やかなコミュニケーションと利害を超えた関係作りによって、20以上のプロジェクトが生まれました。

中でも、塩害にも強い日本古来種の和綿で地域再生に挑む「いわきおてんと SUN プロジェクト」のオーガニックコットンは、スタディツアーで多数に体験してもらい、和手ぬぐいを商品化。その後、素敵なノットラップ（風呂敷）として LUSH 各店舗で数量限定販売され、今ではイギリスでも商品化したいという声もあるそうです。また、避難所生活から、ずっと子どもたちの見守りを続けてきた「石巻寺子屋」も大崎に拠点を移し、子どもが主役の「子ども王国」をオープンしました。

私が復興地のリーダーたちの自立支援で特に心がけたのは「心のケア」でした。ちょうど1年過ぎた頃からリーダーたちの中には心が折れてしまう人も多く、「もう駄目、これ以上頑張れない」と引きこもりや軽いパニック症候群も見受けられました。そこで、まずは女性リーダーたちの深い心の傷を癒すのが緊急課題と、各方面に相談してご紹介いただいたのが、イギリス在住でトラウマケア第一人者の溝口あゆか先生でした。欧米で、ベトナム帰還兵やハイチの地震、ルワンダの内戦によるトラウマケアにも効果があった EFT（Emotional Freedom Technique）という手法を応用しました。メンタルヘルスケアのプロジェクトでは気仙沼、石巻、いわき、南三陸、釜石、仙台などで「EFT（つぼとんトンセラピー）」講習会を開催。延べ約530人の心のケアを行い、9割以上の方々に効果が見られ、楽になったという結果も出ています。

JKSK 結結プロジェクトの活動を通じ、たくさんのお会いがあり、多くの課題解決の知恵を学ばせていただいたことに、私は心から感謝しています。阪神・淡路大震災を甲子園で経験したことが、こうした活動の原点にもなっており、今後の復興支援活動に少しでも活かされることができれば本望です。

認定 NPO 法人 JKSK 女性の活力を社会の活力に 理事・結結プロジェクト事務局長 菌田綾子

